



雨にうたれるサツキの花 (境内にて・6月5日撮影)



金光寺寺報  
第168号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

ものが縛るのではありません  
ものをとらえる心に縛られるのです

今月は仲野良俊師(1916~1988)の『三誓偈講和』にある言葉です。

仲野師は、便利なものを手に入れれば、もっと便利な物が欲しくなるといい、結局は次々と出てくる欲しい物、必要な物に縛られた生活になっていくとされました。しかしその実は、欲しい物に縛られるのではなく、欲しい物をとらえる私の心に縛られていると言われています。

私たちが悩み煩わせる心を、仏教では煩惱といひます。煩惱は108あるといひますが、その中心的な煩惱を三毒といひます。それは貪欲と瞋恚と愚痴です。貪欲は決して満足しないむさぼりの心です。瞋恚は思い通り行かなければすぐに出てくる怒りの心です。愚痴は三毒の根本的な煩惱で、自分中心の心です。自分さえよければ他はどうなっても構わないというよりは、自分のことを第一に考える心、自分のことにし

か思いが及ばない心です。京都女子学園の創設者である甲斐和里子さんの歌に、

足ることを知れるひとつは天地の  
何にもかへぬわがたからなり  
(『草かご』百華苑)

があります。念仏の生活のなかで欲望を見つめられ、「これで十分」と思う気持ちを得たことが宝であるといわれます。煩惱を知らされて、「これで十分」という満ち足りた心を得ることは豊かな人生につながっていきます。

私たちは甲斐さんのような心境になれるか、貪欲と分かりながら、貪欲の生活を続けるかはわかりません。しかし、貪欲と知ることと知らないこととは大きな違いがあります。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 6月 14日(日) 終日  
25日(木) 終日
- 7月 7日(火) 終日  
17日(金) 終日  
18日(土) 終日
- 9月 13日(日) 終日
- 2016(平成28)年
- 2月 20日(日) 終日

5月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2015年 5月 1日 寂 満67歳  
揚 甲 斐 照 夫 様

ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
6月6日現在 アクセス数 75,823人

例年なら今頃は草ぼうぼうの境内ですが、今年はずいぶんきれいな状態です。というのも、四月十九日に十区高齢者クラブの皆さんに境内清掃の奉仕作業に来ていただいたお蔭です。ありがとうございました。草引き作業が軽減され、つつじ剪定や生い茂った樹木の枝切りなど、他の作業をすることができました。完全ではありませんので、梅雨の晴れ間を見て少しずつ作業をしたいと思っています。昨年買ったチェーンソーが活躍しています。ところで、四月からNHKの朝ドラを見ています。「花子とアン」以来の視聴になります。時代背景が現代のためか、テンポ良くドラマが進んでいくので楽しく見ることができ、月曜から土曜日の朝八時がとても楽しみです。テレビといえども「ぶつちやけ寺」という番組が放映されています。以外に見たとの反響が多く、宗教離れの指摘がある昨今、私たちが仏教についてより多くの方々が仏教に関心をお持ちのようので、うれし

いと同時に伝道の必要性を感じます。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

殺生

「そら殺生でつせ、こんな値では商売でけしまへんで」関西での商談で、よく聞かれるセリフです。「殺生なことはやめよ」など、殺生は、むごいこと、かわいそ

うなこと、残酷なことを意味する日常語です。殺生は文字通り、生き物を殺すことです。仏教では、基本的な戒めである五戒、八戒、十戒で、その第一に「不殺生戒」を挙げて、殺生を戒めています。生き物を殺すなといひます。お釈迦さまは弟子たちに「旅をするときには杖の先に金具の環をつけて、それを鳴らして歩け。地べたを這っている虫が驚いて逃げるだろう。そつすれば、一匹の虫も踏み殺さずに歩ける。水を飲むときには、木綿の袋で

濾(すか)して飲め。水の中の小さな生き物を殺さないですむだろうから」と注意されました。その心は、生命を愛護し育成することです。生命を生かすこととす。シユバイツァーは「生命への畏敬」といひました。動物愛護週間ですね。もちろん、人間の命も大切に。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇パート「から」)

住職ひとりごと

# 「常」と「恒」

先月三十日、高千穂町田原正念寺の前住職吉村英正師が行年八十六歳をもってご往生なさいました。五月中旬の住職会でお会いしお元気でしたので大変驚きました。

自坊の護持はもちろんのこと、浄土真宗本願寺派高千穂組寺院連合の先頭に立ち、門徒教化を推進してこられた英正師との突然のお別れはあまりにも悲しく、残念でなりません。

これからは安養のお浄土から還相摂化のお導きをと念じ、ただ、お念仏申させていただくばかりです。

公私にわたるご教導、誠にありがとうございました。

その正念寺で五月二十一日

に降誕会法要のお取次ぎのご縁をいただきました。降誕会とは、親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要です。

今月はその法要で取り次いだことについて、ふれたいと思います。

親鸞聖人の御著作『一念多念文意』に

善導大師が『往生礼讃』に「恒願一切臨終時 勝縁勝境悉現前(つねに願はくは一切臨終の時、勝縁・勝境ごとごとく現前せん)」と述べられているのは、「恒」は「つねに」ということであり、「願」は「ねがう」ということである。ここで「つねに」というのは、絶えることがないという意味であるが、折にふれ、その時々(とき)に願えというのである。だからここで「つね

に」というのは「常」の意味ではない。「常」というのは、「つねに」ということであるが、絶え間なく続かなかち、どのような時も絶えることがなく、またどのような所も避けたり、嫌ったりすることがないのを「常」というのである。

(以下略)  
『一念多念文意』(現代語版) 三、四頁)

とお示し下さっています。

親鸞聖人は、「恒」と「常」は同じ「つね」という言葉だが違うといわれています。

「常」は途絶えることなく続くという意。

「恒」は途絶えながらも終わることなく続いていくという意。

そして、仏のお姿を拝見し、その光明を見、香りをかぎ、善知識のお導きに出遇うということを願うことについて、親鸞聖人は「常」ではなく「恒」であり、「折にふれ、その時々(とき)に願え」とお示しに

なります。

つまり、他力の信心をいだいても、私たちは阿彌陀さまのことをずっと思い続けていることはなく、その思考はあれこれと飛び回っていて、阿彌陀さまのことなど意識の外にあることが多いのです。が、何かのきっかけで阿彌陀さまのはたらきを味わい、よき縁に出遇いたいと思う心が起ります。しかし、阿彌陀さまは「常」に私たちにはたつき続けておられます。私たちがお慈悲・おはたらきを味わうのはおりにふれて「恒」だといわれるのです。

ある和上のお言葉。

電波は常に届いているが、ラジオから音が出るのはスイッチを入れた時だけ。スイッチを入れていない時は音は出ないが、電波が届いていないことではないと、阿彌陀さまのお慈悲・おはたらきは常に届いていると喩えられました。

阿彌陀さまのおはたらきについて味わい深く、ありがとうございました。

## 法語の世界

### 〈原文〉

南殿にて前々住上人(蓮如)、のうれんを打ちあげられて御出で候ふとて、南無阿彌陀仏南無阿彌陀仏と仰せられ候ひて、法敬この心しりたるかと仰せられ候ふ。なにも存ぜずと申され候へば、仰せられ候ふ。これはわれは御たすけ候ふ。御うれしやたふとやと申す心よと仰せられ候ふ云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百八十一)

### 〈現代語訳〉

山科本願寺の南殿で、蓮如上人は、暖簾をあげて出てこられる際に、「南無阿彌陀仏南無阿彌陀仏」と称えて、「法敬よ、今わたしがどのような思いで念仏を称えていたかわかるか」とお尋ねになりました。法敬坊が、「まったくわかりません」とお答えすると、上人は、「今、念仏を称えたのは、阿彌陀仏がこのわたしをお救いくださることをうれしいことだ、尊いことだと喜ぶ心なのだよ」と仰せになりました。

## 6月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)

### 芒種(ぼうしゆ・6月6日)

稲や麦など穂の出る植物の種をまく頃のこと。  
蠃螂生(かまきりしょうず・初候・6月6日~10日頃)

秋に生みつけられた卵から、かまきりが誕生する頃。

腐草為螢(くされたるくさほたるとなる・次候・6月11日~15日頃)

ホタルが暗闇に光を放ちながら、飛び交う頃。

梅子黄(うめのみきばむ・末候・6月16日~21日頃)

梅雨入りと同じくして、梅の実が薄黄色に色づく頃。

### 夏至(げし・6月22日)

一年で一番日が長く、夜がみじかくなる頃。  
乃東枯(なつかれくさかるる・初候・6月22日~26日頃)

冬至の頃に芽を出したうつぼぐさが枯れていく頃。

菖蒲華(あやめはなさく・次候・6月27日~7月1日頃)

アヤメが花を咲かせる頃。

半夏生(はんげしょうず・末候・7月2日~6日頃)

半夏(からすびじゃく)が生える頃。



中学時代に女性の美しい姿の形容として教えていただいた言葉、「立てばシャクヤク、座ればばたん、歩く姿は百合の花」の「シャクヤク」ってどんな花かなと常々思っていたのですが、匿名希望のご門徒さんに上記の写真を提供していただいたことから知りました。

上記写真は絶滅危惧種のベニバナヤマシャクヤクという花。シャクヤクの近縁種ヤマシャクヤクのさらに近縁種です。

お写真の提供をいただき、はじめてシャクヤクを詳しく調べ、どんな花かわかりました。近縁種だけあって写真の花と似ています。